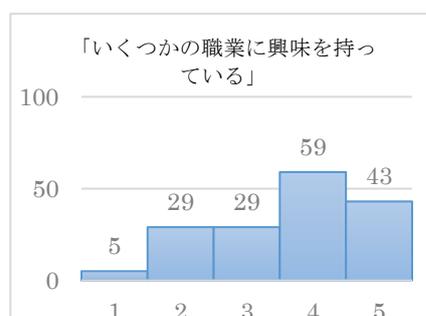


## 教育学部学生調査 2017年度後期速報

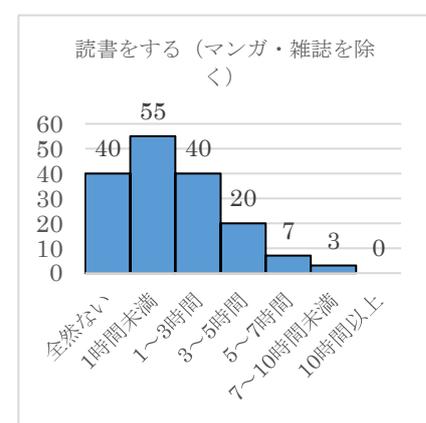
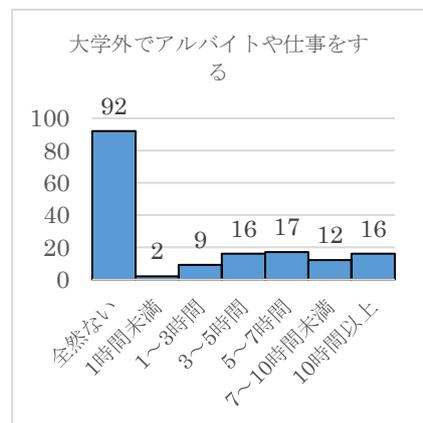
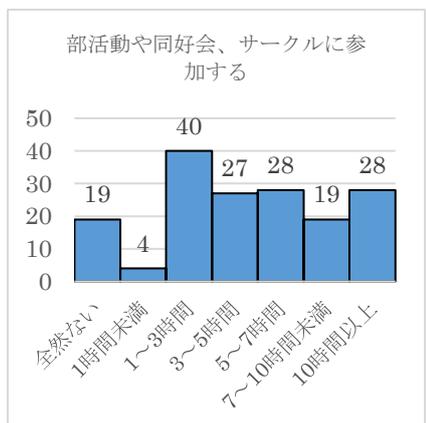
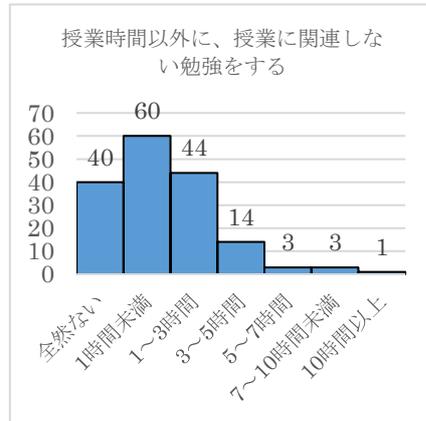
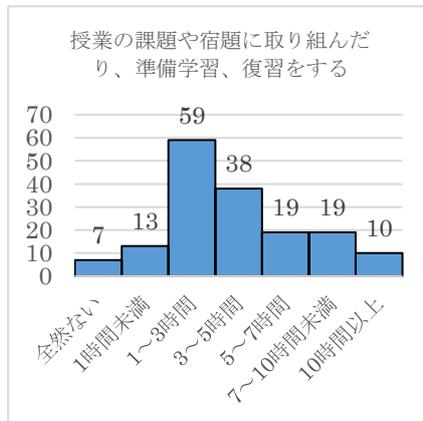
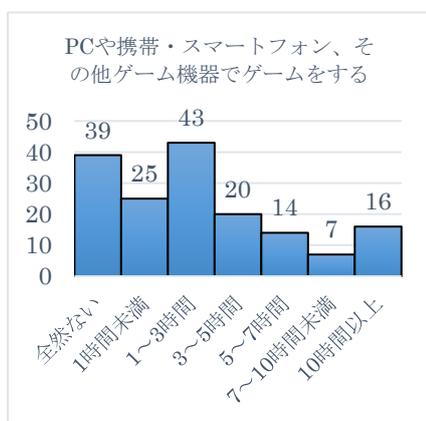
9月に各学年で実施した学部学生調査のうち、得点分布に偏りや特筆すべき傾向が見られたり、統計的に有意な結果が得られたものを取り上げて、以下に報告します。経年変化を見るために、同一サンプルで Semester間の平均値の有意差を見る際には、対応のある  $t$  検定を用いました。

### 1年生 (47期)

① 「いくつかの職業に興味を持っている」において、「4：多少はそう思う」「5：とてもそう思う」と答えた学生は6割以上であった。1年後期時点では、半数以上の学生が複数の職業に興味を持っていることが示唆された。



②各種活動や行動における1週間の時間の使い方は以下のように分布していた。「授業課題や準備学習」で最も多い回答は「1～3時間」、次いで「3～5時間」であった。「部活動への参加」は、「1～3時間」から「10時間以上」まで幅広く分布していた。「アルバイト」は大多数の学生が「全然ない」と回答していた。また、少人数ではあるが、「ゲームの時間」「部活動への参加」「アルバイト」に「10時間以上」と回答した学生や、「授業課題」に「全然ない」「1時間未満」と回答した学生がおり、タイムマネジメント面での懸念が示唆された。



**2年生 (46期)**

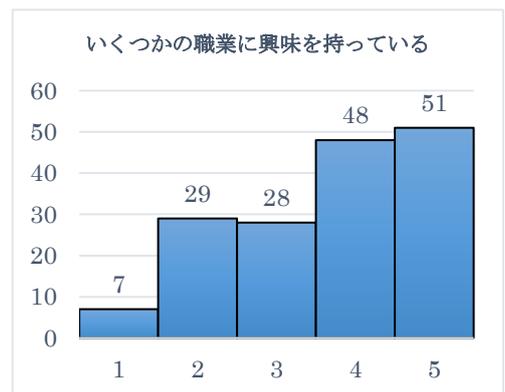
①「パソコンを上手にを使って情報の収集・加工・伝達ができる」(1年後期：2.98、今回：3.22)、「必要な情報は自分で収集できる」(1年後期：3.5、今回：3.76)において、1年前の1年後期から今回調査時点まで得点は有意に上昇していた。大学生活の中で情報収集能力を身に着けていることが示唆された。

②<学部 GP の影響>、特に「外国語の習得に意欲がある」(1年前期：4.07、今回：3.41)、「国際的な出来事に関心がある」(1年前期：3.78、今回：3.53)、「外国語を用いてコミュニケーションをする意欲がある」(1年前期：3.69、今回：3.38)の3項目において、入学時点から1年間で得点の有意な下降が見られた。外国語習得に向けての意欲や、国際的な出来事への関心は、入学時点よりも薄らいでいる可能性が示唆された。

**3年生 (45期)**

①<展望(3項目)>と「現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むことができる」の間には、やや強い正の相関が見られた( $r=.657$ )。将来キャリアについて明確なほど、一つの職業に絞り込む自信を持っていると考えられた。

②一方で、「いくつかの職業に興味を持っている」と「現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むことができる」の間には、弱い負の相関が見られた( $r=-.255$ )。複数の職業に興味を持っているほど、一つに絞り込むことに難しさを感じていることが示唆された。なお、「いくつかの職業に興味を持っている」の分布は左のようであった。3年後期の時点でも、約6割の学生が複数の職業に興味を持っていると回答していた。



**4年生 (44期)**

①<セルフマネジメント(5項目)>において、入学時点と今回では有意差は見られなかった。一方で、<コーピング(2項目)>においては、有意な上昇が見られた(1年前期：6.94、今回：7.86)。大学生活の中で、日常のセルフマネジメントスキルについては変化がなくとも、ストレスフルな状況を切り抜けるなどの有事の際のコーピングは身に着けていることが示唆された。

②学習方略の中では、<モニタリング方略(4項目)>でのみ、2年前期から今回にかけて有意な上昇が見られた(2年前期：15.01、今回：15.97)。特に「ある物事について勉強するときには、他の様々なものと結びつけながら考える」と「勉強するときには、自分が既に知っているものと結びつけながら行う」の間で有意な上昇が見られた。大学教育の中で、既知のものと結びつけて物事を考えたり、新たな物事を吸収する、という学習方略が身につけていることが示唆された。